

第8回只見線復興推進会議検討会

日 時：平成29年12月27日（水）

11時00分～12時00分

場 所：ホテル辰巳屋 8階「瑠璃の間」

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

（1）只見線利活用計画の素案について

（2）その他

4 閉 会

第8回只見線復興推進会議検討会 出席者名簿

日 時：平成29年12月27日(水)11時00分～12時00分

場 所：ホテル辰巳屋 8階「瑠璃の間」

No.	所属		役職	氏名
1	福島県		副知事	鈴木 正晃
2	会津若松市		副市長	斎藤 勝
3	会津美里町		町長	渡部 英敏
4	会津坂下町		町長	斎藤 文英
5	柳津町		町長	井関 庄一
6	三島町		町長	矢澤 源成
7	金山町		町長	長谷川 盛雄
8	只見町		町長	菅家 三雄
9	福島県	生活環境部	部長	尾形 淳一

[オブザーバー]

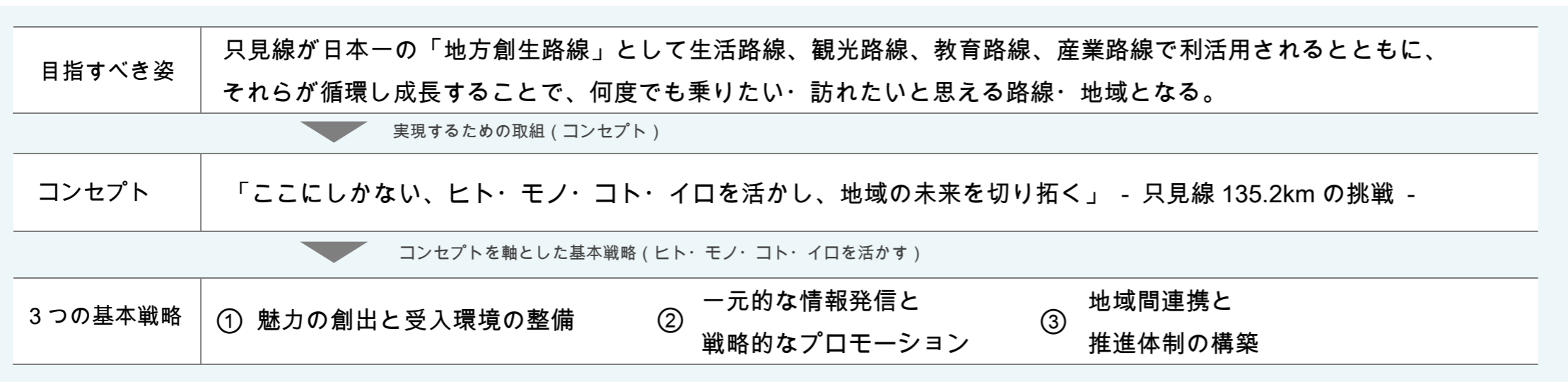
10	国土交通省東北運輸局	鉄道部	部長	寺戸 成周
11	国土交通省東北運輸局	交通政策部交通企画課	課長	菊地 香織
12	東日本旅客鉄道(株)	総合企画本部経営企画部	次長	森 明
13	東日本旅客鉄道(株)	仙台支社総務部企画室	室長	菅原 学

第1章 計画策定の背景

1. 只見線の概況 路線距離 135.2km、駅数 36 駅、秘境を巡る 口ーカル線、豪雨災害による甚大な被害	2. 只見線沿線地域の現状 人口減少、高齢化率上昇、事業所数減少 = 地域衰退が加速する重要な転換期	3. 只見線の復旧 只見線を復旧する意義、 上下分離方式の導入、地元負担の発生	4. 只見線復旧に向けた取組 これまでの各市町、民間団体等による 只見線の復旧に向けた取組	5. 新たな利活用 只見線の新たなステージに向かって、地域が 一丸となって只見線の利活用に取り組む重要性
--	---	--	--	---

第2章 基本方針

行政・企業・住民等が「目指すべき姿」を共有し、連携して取り組むことが重要



第3章 重点プロジェクト

観 目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト

地域資源を掘り起こし、磨き上げながら、列車内で会津の自然や文化に触れることができる只見線ならではの企画列車を運行する。



観 奥会津景観整備プロジェクト

奥会津の風景を阻害している杉や雑木を伐採し、ビュースポットを整備するなど、奥会津の美しい景観を形成する。



観 教 生 産

只見線二次交通整備プロジェクト

二次交通事業の拡充や駐車場対策により、生活利用、観光利用の両面で、只見線の利用促進を図る。



観 教 生 産

只見線魅力発信プロジェクト

只見線のプロモーションを強化し、ウェブページやSNS、テレビなど、様々な媒体により、地域の魅力を発信する。



観 教 生 産

只見線利活用プラットフォーム構築プロジェクト

只見線応援団を活用しながら、各団体が活動しやすい環境を整備するとともに、民間主体の推進体制構築に向けて土台作りを行う。



教 只見線学習列車プロジェクト

ダム、自然、暮らし、農業、食、体験など、地域の教育資源を活用しながら、駅や列車内で環境教育や体験学習を行う。



教 奥会津サテライトキャンパス整備プロジェクト

サテライトキャンパスを開設し、公開講座や学生のセミナーハウスなどで活用することで、地域の拠点となる場を創出する。



生 みんなの只見線プロジェクト

地域の機運を高め、マイレール意識を醸成することで、只見線の利用促進を図るとともに、来訪者へのおもてなしの心を醸成する。



産 只見線産業育成プロジェクト

ガイドの養成や商品開発など、只見線を活用しながら、地域ならではの産業を育成することで、住民が活躍できる場を創出する。

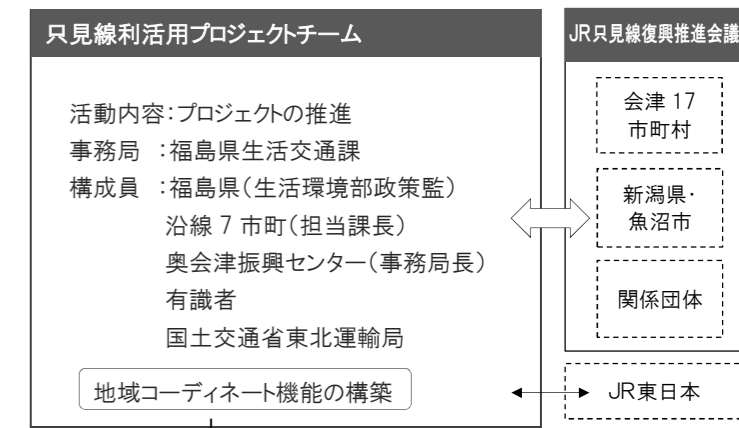


観 観光路線 **教** 教育路線 **生** 生活路線 **産** 産業路線

<プロジェクト推進組織>

主体	期待される役割
県	広報(プロモーション)、土台作り
沿線自治体	各地域の魅力作り(掘り起こし、棚卸し)、受入体制の整備(二次交通、案内看板)、駅の美化活動
民間企業・各種団体・住民	只見線の利活用(只見線に乗る、ツアー・イベントの実施、旅行商品・特産品開発、ガイド養成)
J R	列車の運行、地域の宣伝等

(当面の推進体制)



(主なコーディネート例)

- ・只見線利活用計画の周知
- ・只見線関連情報の収集、発信
- ・各プロジェクトの調整

※地域を巻き込みながら、民間の推進体制構築に向けた土台作りを行う。

(只見線全線開通を見据えた新たな推進体制)

既存の地域活性化推進団体の活用も視野に入れ、県、地元自治体、民間団体、JRなど、官民が一体となった新たな推進体制の構築を目指す。

第4章 計画の進め方

1 推進体制 当面、県、市町、民間団体等のそれぞれの事業として実施するものの、只見線利活用プロジェクト推進チームにより連携を図る	2 位置づけ P T の協議による独自施策の推進 行政、企業及び住民等の連携を図るための行動指針	3 計画の推進期間 2018 年度から 2022 年度までの 5 年間	4 目標達成状況の評価基準 5 戦略の再検討 プロジェクトの進行管理・P D C A サイクルによる効果検証
--	---	---	--



只見線 利活用計画

[素案抜粋]

2017.12

1 魅力の創出と受入環境の整備 観光路線

実施場所
沿線地域

1 目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト



風っこ只見線紅葉号

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 只見線沿線地域には、食・自然・風景・体験・歴史・文化など、独自性の高い資源が多くあるものの、十分に活かされてない。 ・ 埋もれている資源が多くあることから、各地域の資源を掘り起こし、磨き上げながら、各地域の魅力を改めて創出する必要がある。 ・ 資源の連携を強化し、「点」で存在する資源を「線」に、さらには「面」へと広げ、地域一丸となってPRしていくことが重要となる。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五能線の取組を参考に、地域の資源やおもてなしをパッケージ化し、楽しみ方を分かりやすくしたサービスを造成することで、只見線利用者数の増加を図る。 ・ 将来的には海の五能線に並ぶ、山の只見線として、全国はもとより、世界に注目されるエリアとなることを目指す。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が主体となり、車内や停車駅で地酒やご当地の食の提供、振舞いや伝統芸能の披露など、会津地域ならではの、ものづくりや伝統文化の体験をセットにした企画列車を運行する。 ・ 地域の機運を高めながら、企画列車の需要を拡大することで、将来的にはJR五能線リゾートしらかみのように景勝地を巡り、列車内で地域の自然や文化に触れることができる、只見線ならではの企画列車の定期運行を目指す。

プロジェクトを成功させるために必要な事	
県	企画列車の安定的な運行(利用者の確保、広報手段の確立、低コスト化) ガイドブックを通じた企画列車のパッケージ化、魅力発信
沿線市町	全国に誇れる魅力の創出(例、五所川原の立佞武多) 駅を基点とした周遊ルートの確立
民間等	プロジェクトへの積極的な参画 企画列車を活用した旅行商品の造成

具体的アクション					
	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
県	試験的運行(徐々に実践回数を増やす)				
	企画列車ガイドブックの作成				
沿線市町	地域の魅力創出 リスト化	ガイド育成	キラーコンテンツ化	周遊ルートの整備	
	駅・列車内での企画		多角化		
			駅の魅力向上		
民間等	企画列車の協力 ガイド・広報協力	連動企画の実施	旅行商品の造成		
				企画列車運行	
ターゲット	●インバウンド ●首都圏のシニア層 ※企画の内容に応じてターゲットを設定				
KPI (成果指標)	企画列車年間利用者数 今後設定				
KGI (最終目標)	専用車両の導入				

1 魅力の創出と受入環境の整備 観光路線

実施場所

2 奥会津景観整備プロジェクト

金山町・只見町・三島町・柳津町



第三只見川橋りょう(三島町)

背景	<ul style="list-style-type: none">・ 只見川と橋りょうが織り成す風景は、世界的にも注目が高まっている一方で、その大部分を杉や雑木が阻害している。・ 特に奥会津地域は、国道252号線に並行して、只見線や只見川等の美しい景観が続いており、ビュースポットを整備することで新たな観光拠点となる。・ 只見川に並行した廃道敷が未活用のまま残っているなど、地域には磨き上げが可能な資源が多く存在する。
目的	<ul style="list-style-type: none">・ 奥会津の原風景を守り、地域のさらなる磨き上げを行うため、杉の伐採によるビュースポットの整備や、廃道を活かした自然散策路の整備を行い、奥会津の美しい景観を形成する。
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 奥会津の風景を阻害している杉や雑木を伐採し、写真撮影スポットとなる視点場(ポケットパーク等)を整備することで、車窓や沿線の絶景ポイントを創出する。・ 落葉広葉樹の植樹や、耕作放棄地・森林の荒廃対策など、奥会津の里山形成も含めた、魅力ある風景を形成する。・ 廃道を活用した自然散策路を整備し、新たな観光拠点を創出する。

プロジェクトを成功させるために必要な事	
県	県管理道路や河川敷内の景観支障木の伐採 ポケットパーク整備、散策路などの整備効果を高めるための情報発信
沿線市町	伐採計画に基づく効果的な伐採 景観支障木の伐採、ビュースポット整備、林業関係団体との連携
民間等	伐採木材の利活用 景観支障木の伐採協力、草刈り等も含めた里山形成への参画

具体的アクション					
	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
県		景観支障木の伐採 			
			案内看板の設置 情報発信 		
沿線市町	伐採・植樹箇所の調査 	景観支障木の伐採・植樹 	里山形成(本来の魅力ある風景) 	自然散策路整備 	
民間等		伐採・植樹の協力、木材の利活用 	里山形成(できることから) 		
ターゲット	●鉄道ファン(「撮り鉄」)をメインターゲットにしつつ、旅行者が気兼ねなく楽しめる環境整備を行う。				
KPI (成果指標)	ビュースポット・ポケットパーク箇所数 今後設定				
KGI (最終目標)	ビュースポット・ポケットパーク整備 自然散策路の整備				

1 魅力の創出と受入環境の整備 教育路線

3 只見線学習列車プロジェクト

実施場所
沿線地域



只見線学習列車の様子

背景	<ul style="list-style-type: none">・ 只見線沿線地域には、ダム・自然・暮らし・農業・食・体験など、数多くの教育資源が存在する。・ 未来を担う子ども達に只見線と沿線地域の思い出を残してもらうことで、中長期的な利用促進に繋がる。・ 震災以降、教育旅行が低迷しつつある会津地域にとって、学習列車が呼び水になるとともに、既存の教育プログラムとの相乗効果が図られる。
目的	<ul style="list-style-type: none">・ 教育旅行等で訪れる小・中学生をメインターゲットに、会津・奥会津に人が流れる仕組みをつくり、全国からの教育旅行（只見線利用者）を呼び込む。・ 学びの場としてのブランドを確立しながら、学習列車の需要を拡大することで、将来的には日本初の専用車両の運行を目指す。
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 沿線地域の本物の景色・教育資源を活用しながら、駅や列車内で、環境教育や体験学習等を提供する。・ 既存の教育プログラムや小中学生を対象としたツアーとの連携を図り、活きた知識の習得と、郷土愛の心を育む。・ 様々な学びのメニューを造成し、地域資源を活かしたニューツーリズムと組み合わせることで、学習列車の需要を拡大する。

プロジェクトを成功させるために必要な事	
県	学習列車の安定的な運行(広報手段の確立、低コスト化) 外部資金を活用した補助制度の創設(民間企業の巻き込み)
沿線市町	地域資源を活かした教育プログラムの開発、姉妹都市など交流地域へのPR(誘致) 宿泊施設や見学施設などの受入環境整備(アレルギー対策等)
民間等	プロジェクトへの積極的な参画 農家民泊の推進

具体的アクション					
	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
県	モデル校による実施(徐々に参加校を増やす) パンフレット作成	ガイドブック作成 民間企業巻き込み			
沿線市町	教育プログラム開発 リスト化	講師養成 市・町内学校へ参加呼びかけ	メニュー化 姉妹都市等へのPR	キラーコンテンツ化	
民間等	学習列車の協力 講師広報協力	連動企画の実施	企業等の巻き込み		学習列車一部運行・営業
ターゲット	●小中学生の教育旅行				
KPI (成果指標)	学習列車参加校 今後設定				
KGI (最終目標)	専用車両の導入				

1 魅力の創出と受入体制の整備 教育路線

実施場所
沿線地域

4 奥会津サテライトキャンパス整備プロジェクト



三島町「清匠庵」

背景	<ul style="list-style-type: none">・ 人口減少・高齢化が進行するなか、地域に活力をもたらすには、若者が地域に流入する仕組みを作ることが重要である。・ 特に奥会津地域は、空き家が多く存在し、空き家対策は喫緊の課題となっている。若者が多く訪れる場所を作り、住民と若者が交流する場の創出や、只見線の利用促進を図ることで、地域に活気生まれる。
目的	<ul style="list-style-type: none">・ 古民家を活用したサテライトキャンパスを開設し、公開講座や学生のセミナーハウス等で活用するなど、地域内外から多くの人財が集まる拠点施設を整備する。
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 古民家を活用したサテライトキャンパスを開設し、公開講座や学生のセミナーハウス、簡易宿泊所など、地域の拠点となる場を創出する。・ 県立高校の特長化や教育機関、研究所等の誘致も視野に、学びの場としての奥会津ブランドの向上を図り、交流人口、定住人口の拡大を図る。・ 「首都圏大学生等による奥会津プロジェクト」などの大学生交流活動を発展させ、より多くの大学生等を奥会津地域に呼び込む。

プロジェクトを成功させるために必要な事	
県	サテライトキャンパスの実現に向けた支援
沿線市町	継続的に運営するための維持管理 学びの場としての機運醸成
民間等	サテライトキャンパスの実現に向けた調整 大学・企業の巻き込み・誘致

具体的アクション					
	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
県	サテライトキャンパスの実現に向けた支援				
沿線市町	調査協力	事業協力	機運の醸成		
民間等	ニーズの把握	実現可能性調査	詳細設計	空き家等の改修	維持管理
ターゲット	●県内外の学生				
KPI (成果指標)	大学生等交流活動 参加延べ人数 今後設定				
KGI (最終目標)	サテライトキャンパスの新設				

1 魅力の創出と受入環境の整備 生活路線

5 みんなの只見線プロジェクト ～只見線に乗って～

実施場所
沿線地域



只見駅54歳の誕生日イベント(只見町)

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 只見線利用者数の増加を図るには、住民の通勤・通学などの生活利用を促進することが最も効果的である。 ・ 只見線の全線開通を見据え、地域の機運を高め、地域一丸となって只見線の利活用に取り組む必要がある。 ・ 只見線沿線地域には、只見線を支援する様々な団体があり、それぞれの団体が活動しやすい環境を作ることで、継続的な利活用が図られる。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の機運を高め、住民のマイレール意識を醸成することで、只見線の利用促進を図るとともに、来訪者に対するおもてなしの心を醸成する。 [全住民参加型の只見線利活用]
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民による只見線の利用促進を図るため、運賃助成、只見線関連イベント、啓発事業などを行い、只見線の利用機会を創出する。 ・ 行政と地域が連携しながら、できるだけ多くの企業・団体・住民を巻き込み、マイレール意識を醸成するとともに、おもてなしエリアとしての認知度を高めていく。 ・ マイレールポイント制度の導入も視野に、只見線の付加価値を高め、利用を促進する。 ・ 多くの県民が只見線に親しむ機会をつくるため、「只見線の日」制定や、1年に1回只見線に乗るといった県民運動の実現を目指す。

プロジェクトを成功させるために必要な事	
県	只見線応援団の活動を強化
沿線市町	只見線利活用に関する企業・団体・住民の巻き込み 住民による只見線の利用促進
民間等	定期的な只見線利用 只見線利活用に関する各種活動

具体的アクション					
	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
県	地域コーディネート機能の構築				
	只見線応援団の有志者によるプロジェクトの実施				
沿線市町	運賃助成、イベント、啓発事業				
	駅周辺の魅力創出				
民間等	只見線利活用に関する各種活動				
	只見線の乗車				
ターゲット	福島県民				
KPI (成果指標)	只見線利用者数、只見線認知度 今後設定				
KGI (最終目標)	全住民参加型の利活用促進・受入体制整備、ダイヤ見直し				

1 魅力の創出と受入環境の整備 **産業路線**

実施場所
沿線地域

6 只見線産業育成プロジェクト



米焼耐ねっか只見線特別ラベル

背景	<ul style="list-style-type: none"> 観光、教育を切り口に交流人口の増加を図っていくことと併行して、地域ならではの新しい産業の創出・育成を図ることにより、相乗効果が生まれ、正の循環が発生する。
目的	<ul style="list-style-type: none"> 只見線を活用した地域ならではの産業を育成し、各プロジェクトと連動しながら相乗効果をもたらすことで、住民が活躍できる場を創出するとともに、沿線地域への移住・定住人口の拡大を目指す。
概要	<ul style="list-style-type: none"> 各プロジェクトの成果を最大限地域経済に波及させるため、只見線関連の産業を育成することで、ガイドや講師など住民がこれまで以上に活躍できる場を創出する。 沿線地域の伝統、自然、食、文化などを活かし、只見線関連商品やサービスの開発・復活を行う。 クラウドファンディングも活用しながら、全国へ共感の輪を広げるとともに、集めた資金を各種プロジェクトに役立てる。

プロジェクトを成功させるために必要な事	
県	各プロジェクトにおける連携
沿線市町	住民が活躍できる場の創出 地域資源の掘り起こし
民間等	只見線関連商品・サービス開発

具体的アクション					
	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
県					
沿線市町					
民間等					
ターゲット	●地域住民:高齢者(伝統、歴史、技能の継承)				
KPI (成果指標)	只見線関連商品数 今後設定				
KGI (最終目標)	地域経済の活性化・住民が活躍できる場の創出				

1 魅力の創出と受入環境の整備 ■■■

実施場所
沿線地域

7 只見線二次交通整備プロジェクト



只見駅前出発のバス

背景	<ul style="list-style-type: none">・ 只見線利用者数の増加および沿線地域の交流人口の拡大を図るには、駅と接続した二次交通の拡充が必要であり、只見線と沿線の観光資源とを繋ぐ交通手段を確保することで、地域の周遊が可能になる。・ 地域に訪れる人の多くが自動車利用者であるため、自動車利用者でも只見線に乗れる仕組みを作ることで、只見線の利用促進が図られる。
目的	<ul style="list-style-type: none">・ 二次交通整備や駐車場対策により、只見線の利便性を向上させ、生活利用、観光利用の両面での利用促進を図る。・ 沿線の観光資源を磨き上げ、只見線と繋ぎ合わせることで、駅を基軸とした周遊ルートを確立する。
概要	<ul style="list-style-type: none">・ デマンドバスやタクシー、周遊バスなど、駅と接続した二次交通事業を拡充し、地域住民や観光客、交通弱者などが利用できる公共交通網を構築する。・ 只見線および沿線の観光資源の魅力を高め、それらをバス・タクシー等の二次交通で結びつけることで、相乗効果を生み出すとともに、・ 旅行者や住民が気兼ねなく地域を周遊できる仕組みを作る。

プロジェクトを成功させるために必要な事	
県	広域的な路線の運行支援 二次交通整備に向けた支援
沿線市町	公共交通網の整備 地域の魅力創出(駅を基軸とした周遊ルートの確立)
民間等	観光事業者:観光施設の受入環境整備 交通事業者:継続的な運行(将来的な自走)

具体的アクション					
	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
県	二次交通整備に向けた支援				
	広域路線の運行支援(実証実験)				
沿線市町	二次交通事業の実施				
	周遊化促進				
民間等	受入環境整備				
ターゲット	●地域住民、旅行者(只見線利用者)				
KPI (成果指標)	路線数 乗客数 今後設定				
KGI (最終目標)	只見線を核とした公共交通網の構築				

2 一元的な情報発信と戦略的なプロモーション

実施場所

沿線地域

8 只見線魅力発信プロジェクト



絶景列車、只見線!奥会津魅力満載キャンペーン記者会見

背景	<ul style="list-style-type: none">・ 只見線の復旧に向けた注目が高まっているものの、只見線の全国的な認知度は2割にも満たない状況であり、情報発信には課題がある。・ 東北のインバウンド増加に向けて、只見線の絶景が注目されている一方、訪日外国人に対して発信する手段が確立されていない。
目的	<ul style="list-style-type: none">・ 只見線のプロモーションを強化し、地域の魅力を全国へPRするとともに、地域がチャレンジする姿を発信し、共感の輪を広げる。
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 情報発信の体制を強化しながら、ウェブページ、SNS、テレビなど様々な媒体によるプロモーションを行い、只見線の認知度を向上させるとともに、只見線の利用者増加に繋げる。・ 情報を集約、蓄積、発信する受け皿を作り、効果的に魅力を届ける。・ 各プロジェクトで地域がチャレンジする姿を記録し、発信することで、全国へ共感の輪を広げる。

プロジェクトを成功させるために必要な事	
県	住民自らが魅力を発信できる環境・仕組み作り
沿線市町	広報協力
民間等	観光素材の提供、広報協力(積極的な発信) フィルムコミッション整備

具体的アクション					
	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
県	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を集約、蓄積、発信するウェブページ・SNSの開設 ・地域の様々なシーンを動画で記録し、プロモーションビデオを作成 ・住民自らが魅力を発信できる環境・仕組み作り 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会を捉えたプロモーション活動 				
沿線市町	広報協力・魅力発信				
民間等	観光素材の提供、広報協力				
		只見線フィルムコミッション整備			
ターゲット	●企画ごとにターゲット設定				
KPI (成果指標)	只見線認知度 今後設定				
KGI (最終目標)	全国から注目を集め、只見線に乗ってもらおう。				

③ 地域間連携と推進体制の構築

実施場所

沿線地域

9 ■■■ 只見線利活用プラットフォーム構築プロジェクト



只見線応援団

背景	<ul style="list-style-type: none">・ 各地域がそれぞれ積極的に只見線の利活用に取り組んでいるものの、個別の取組では限界がある。・ 地域の旗振り役が存在せず、取組のコンセプトが一貫していないものが多い。・ 全国で6万人を超える只見線応援団の協力を得ながら、地域内外の機運を高めることで、更なる利活用が図られる。
目的	<ul style="list-style-type: none">・ 地域のプラットフォームである民間主体の推進体制を構築し、行政の推進体制と協働することで、官民の活動を一元化する。
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 只見線の復旧及び利活用に対する意識が地域や個別属性ごとに異なっている状況を踏まえ、只見線沿線という帰属意識の醸成を図り、継続性のある組織を作るため、地域コーディネート機能を構築し地域を一つにする。・ 地域の旗振り役を明確にしたうえで、只見線応援団の活動を活発化させるとともに、各団体が活動しやすい環境を整備する。・ 地域を積極的に巻き込み、機運の醸成を図るとともに、地域一丸となって只見線の利活用に取り組む。

プロジェクトを成功させるために必要な事	
県	只見線応援団活動の活発化 地域コーディネート機能の構築による機運の醸成
沿線市町	民間団体の活動支援
民間等	只見線の積極的な利活用 各プロジェクトへの参画

具体的アクション					
	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
県	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネート機能の構築 ・只見線利活用計画の周知 ・地域及び只見線応援団に対する情報発信の強化 				
沿線市町	<ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネート活動の支援 民間団体の活動支援 住民への参画呼びかけ 				
民間等	<ul style="list-style-type: none"> 只見線の利活用(只見線応援団の活用) 民間の推進体制の構築 				
ターゲット	●地域住民				
KPI (成果指標)	只見線応援団員 今後設定				
KGI (最終目標)	民間主体の推進体制構築				

地域への誘客、地域の取り組みへの支援(2017年度)

SLの運行

- SL只見線新緑号:5月20、21日



風っこ只見線の運行

- 新緑号:5月4~6日
- 夏休み号:8月5、6日
- 紅葉号:10月21、22日



びゅう旅行商品 「只見沿線のたび」 の造成

- 2014年より開始、奥会津地方への誘客を推進



団体列車の運行

- 奥会津学習列車(福島県様)



「ふくしま産直市」の開催

- 上野駅:10月26~28日
(写真は昨年度の様子)



- プロレス列車(魚沼市観光協会様)



出典:魚沼市観光協会HP

只見線関連グッズの商品化契約(例)

- オリジナルフレーム切手
(日本郵便様)



出典:日本郵便(株) HP

- 米焼酎ねっか
(合同会社ねっか様)



出典:合同会社ねっか

- キハ金太郎
(魚沼市地域まちづくり振興公社様)



出典:只見線つなぎ隊HP

- 只見線体験ツアー(福島県様)



※ 団体列車の申し込みは、運行ダイヤや車両手配など仙台支社内で調整の必要があるため、余裕を持ってお申し込み頂きます。

地域の宣伝(2017年度)

「トランヴェール」の配布

- ・発行部数約65万部
- ・東北・山形・秋田・上越・北陸新幹線の座席に設置
- ・2017年11月号で「会津軍、奥会津で奮闘す!」を巻頭特集

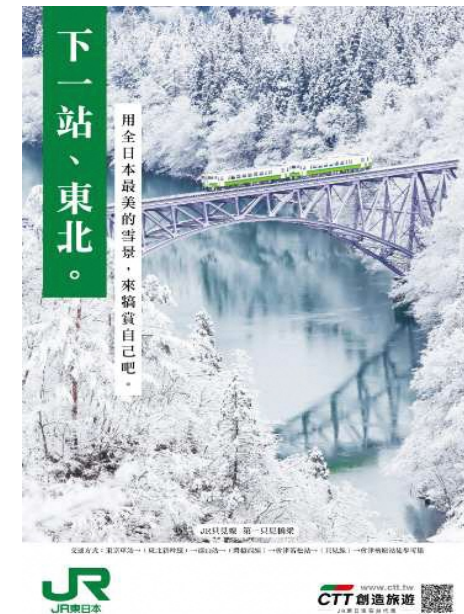


「行くぜ、東北。」ポスターの掲示

- ・9月1日～11月30日に管内全てのエリアで掲出



- ・10月4日～11月3日に台湾の台北駅に掲出(創造旅行社様)



「TRAIN SUITE 四季島」の車内等において会津地方の特産品を提供・使用

奥会津金山
天然炭酸の水
(株)ハーベス様



出典: (株)ハーベスHP

香木実
(株)本家長門屋様



出典: (株)本家長門屋HP

四季島オリジナル
ショウプレート
(太陽漆器(株)様)



四季島オリジナル
エッセンシャルオイル
(株)一十八日様

